

[抄録様式]

<p>公益財団法人 8020 推進財団</p> <p>平成 28 年度 歯科保健活動助成交付事業報告書抄録</p>
<p>1. 事業名：</p> <p>長野市内における障害者福祉施設での口腔ケアの取り組み</p>
<p>2. 申請者名：</p> <p>公益社団法人 長野市歯科医師会 会長 北川原穰</p>
<p>3. 実施組織：</p> <p>公益社団法人 長野市歯科医師会 地域保健部（在宅・障害者担当）</p> <p>社会福祉法人 長野市社会事業協会 栗田園</p>
<p>4. 事業の概要：</p> <p>長野市内開設の障害者福祉施設・栗田園において、施設を利用する知的障害者に対し歯科健診及び歯科衛生士による口腔ケアを行った。お口の健康を維持するために自身の口腔内の現状を知ってもらい、口腔内診査と口腔衛生指導の他にリーフレット配布を行い、口腔ケアの重要性を啓発した。本年度は、日本大学歯学部摂食機能療法学講座 主任教授 植田耕一郎先生をお招きし、摂食嚥下機能障害・摂食嚥下リハビリテーションについての講演会を開催した。</p>
<p>5. 事業の内容：</p> <p>障害者福祉施設・栗田園を利用している知的障害者 16 名に対し、平成 28 年 10 月 26 日に口腔内診査と口腔ケアを行った。同年 10 月から翌 29 年 2 月まで毎月一回歯科衛生士が口腔ケアを行い、2 月 8 日、再度口腔内診査を行った。月一回の口腔ケアでは一人一人の受診者に適した口腔衛生指導を心がけ、フロスやタフトブラシの使い方などの指導を行った。受診者のブクブクうがいの様子を見て、再度指導・確認を行った。口腔内診査 1 回目と 2 回目の両方の口腔内診査を受けた受診者の結果のうち、歯垢・歯石の付着状態、歯肉の状態について比較検討した。</p>
<p>6. 実施後の評価（今後の課題）：</p> <p>4 年間連続で受診した者が 7 名となり、4 名が昨年と今年の 2～3 年間受診した。栗田園での口腔ケアが施設利用者に認知・浸透し、継続することの重要性を確信してもらえていることがうかがえた。今年度、初めて受診する新規利用者は 8 名であった。月 1 回・計 5 回の口腔内ケアでは、歯科衛生士が受診者に、磨き方、ブクブクうがいの重要性、磨き残しや歯肉炎があるところを丁寧に説明した。4 年間口腔ケアを受けている利用者には、フロスやタフトブラシなどの補助器具の使用方法も指導した。2 回目の口腔内診査では歯垢の付着は軽減する傾向がみられ、多数の受診者は、歯肉の炎症の改善傾向を認めた。</p> <p>過去 4 年を総括すると、歯垢の付着および歯肉の状態は、この過去 3 年比でかなり改善された。歯石の付着は、かかりつけ歯科医院が存在しかつ歯石除去の処置を行わないと改善されないため、4 年間変化がない利用者が多かった。</p> <p>障害のある人たちが豊かな生活をおくり健康度を向上させるためにも、継続的な歯科健診、口腔衛生指導の充実が不可避であると考え。ケアの効果は認められるが、次のステップとして、施設利用者が歯科処置をスムーズに受けられる体制を整えることが望ましい現状であると考えられる。口腔ケアの有用性が示されたこのような事業を他の同様な施設でも行い、最終的には長野市の健診事業として実施されることを期待する。</p>